日本経済新聞　2014年（平成26年）9月8日（月曜日）

液晶タッチパネル貼り合わせ

FUK、材料費を半減

装置開発

液晶関連ベンチャーのFUK（奈良県御所市、植村光生社長）は、液晶タッチパネルの貼り合わせに必要な材料コストを半減できる装置を開発した。カバーガラスとディスプレーの間に余分な気泡を入れずに貼れる装置で、手作業を省き、接着剤の使用を減らせる。今年度中にも生産を始め、液晶パネルメーカーに販売する。

装置は中外炉工業と共同で開発した。これまでは粘度の高い接着剤を使うと気泡が入るため、貼り合わせの作業が簡単な粘度の低い液体の接着剤を使い、紫外線で固めていた。ガラスからはみ出た接着剤を手でふき取る作業が必要だった。

開発した装置は、カバーガラスとディスプレーを端から貼り合わせる際の角度を微妙に調整し、粘度の高い接着剤を使っても気泡が生じないようにする。手作業を省きパネルの貼り合わせの工程を全自動にできるため、生産時間の短縮にもつながる。価格は1台あたり7000万円で、約20台の販売を目指す。

既にスマートフォン（スマホ）向けに大手パネルメーカーから引き合いが来ているという。FUKの植村光生社長はシャープ出身の技術者で、亀山工場（三重県亀山市）の建設に携わった。

国に輸出

島県北島町。創業は1945年。00万円。ヨーグ
塡機、紙・プラスチッ
。2014年3月期の
常利益は7億4000
。

るのを防ぐ。注入速度
移動の微妙な制御も
充塡のポイントだ。
科の賞味期限を延ばす
独自技術で充塡機の
を保つ。紫外線で容器
菌する技術を確立。密
た機械内部の気圧を高

が創業。充塡機の開発はヤクルトの容器がガラス瓶からプラスチック製に替わったのがきっかけだ。68年、プラスチック容器向け充塡機をヤクルトに納入し、機械メーカーに転身した。

牛乳容器もガラス瓶からプラスチックに切り替わるとみて、70年にドイツ企業から技術を導入した。だが、プラスチックごみの公害を懸念する声が高まり計画は頓挫、経営悪化に陥る。

代わりに広がり始めたのが海外で普及していた屋根型の紙パックだったが、充塡機は海外メーカーの独壇場。修理に時間がかかるため乳業メーカーの間で国内製への期待が高まった。起死回生をかけて牛乳パック向け充塡機の独自開発に挑戦し、77年に国産第1号機の完成にこぎ着けた。

植田滋社長は「充塡機を進化させながら相乗効果を見込める事業を追求する」と語る。昨年から今年にかけて部品点数を削減した低価格機や、アルミ箔を使わない環境配慮型紙パック向け充塡機を発売。無菌技術を生かして賞味期限の長い紙パック入り豆腐の生産にも力を入れる。

昨年にはタイのバンコクに駐在員事務所を開設した。「欧米市場を死守しながら東南アジア市場を掘り起こす」（植田社長）。国内で磨いた品質を武器にアジアでの成長に挑む。

（徳島支局長　上原吉博）

細菌を含む外気が入ら
構造にしている。
961年、牛乳などの
に使うタンクのメーカ
して植田道雄名誉会長